



第51回入学式にあたって

札幌市立札幌中学校校長

春の日射しが心地よく感じられる本日の佳き日、ここに148名の新入生を迎えて第51回の入学式を行うことができました。

本日の入学式に、お忙しい中、ご来賓としてご臨席いただきました、吉原PTA会長様をはじめ、小学校の校長先生や教頭先生、学校評議員様、日頃から大変お世話になっている地域の皆様、PTA役員の皆様、誠にありがとうございます。

新入生の皆さん、改めて中学校への入学、おめでとうございます。今日から皆さんは、半世紀もの伝統あるこの札幌中学校の生徒です。

今、皆さんの表情を見ますと、大変素晴らしい輝きが見られます。その思いを大切に、本校の生徒としての誇りと自覚、そして自分の目標をもって、中学校生活をスタートさせてください。

この札幌中学校には、生徒と教員が共有しているキーワードがあります。

それは「心をかたち ～言葉と行動 思いやりと支えあい～」という言葉です。思いやりと支えあいの「心」を、言葉や行動という「かたち」にして示していきましょう、というものです。

では、「かたち」に表れる「心」は、どのようにして育つのでしょうか。

皆さんは、「守・破・離」という言葉を知っているでしょうか。「守」は「まもる」、「破」は「やぶる」、「離」は「はなれる」という漢字を使います。

これは、戦国時代に茶の湯を確立した千利休の言葉が元になっています。「守」とは、基本をしっかり守ること。「破」とは、基礎を応用して独自の発想を創ること。「離」とは、自分なりの流儀を確立させることを意味しています。

日本で、茶道や武道だけではなく、芸事の文化が発展、進化してきた過程のベースとなっている思想です。

修業とは、まずは師匠から教わった型を徹底的に「守る」ところから始まります。師匠の教えに従って修業を積み、その型を身につけた者は、師匠の型はもちろん、他の流派の型なども含めて、より自分に合った型を試すことで、これまであった型を「破る」ことができるようになる。そこから更に修業を重ねると、最初に教わった師匠の型と自分自身で見出した型のどちらにも通じて、どの型からも「離れ」て自在となり、新たな流派を生み出すことができるというものです。

新入生の皆さんにとって、この一年間はまず「守」の段階だと思います。「心」を育てるために、まずは中学生としての基本を大事にしてください。

スポーツでもなんでも、フォームは大切です。形が中身、つまり「心」を育ててくれることもあるのだと思います。

「形から入る」というと、付焼刃でその場しのぎ的な意味にもとられますが、「形から入って心に至る」という言葉もあります。最初は形を真似しただけであっても、長く続けると、その本質が理解できるようになるのです。

これから始まる中学校生活は、皆さん一人一人の個性や能力を発見し、一層成長させるところでもあります。

まず、どのように取り組んでいけばいいかわからない人がいれば、ぜひ、次の三つの「かたち」から入ってみてはどうでしょうか。一つ目は、「先輩たちを手本に取り組む」です。

皆さんは、いろいろな場面で、先輩たちに触れます。

先輩たちの姿の中に、あこがれの姿、お手本とすべき姿を見つけてください。そして、その先輩たちを参考にして、なりたい自分に向かって努力してください。

二つ目は、「あいさつを大切にす」です。

友達同士はもちろん、本校の先生方や職員の方、また、保護者の方や地域の方、お客様にあったとき、学校の中でも、学校の外でも、明るくさわやかなあいさつを自分から進んでしてみてください。

三つ目は、「前向きな言葉を使う」です。

誰もが皆、いじめを絶対に許さず、互いに支え合う良い関係を、新しい仲間と一緒に作りたいと思っているはずですが、困っている時、温かい言葉をかけられた経験はありませんか。思いやりや励ましは一生忘れません。後ろ向きな言葉ではなく、柔らかく温かい言葉を、積極的に使ってください。

これらの三つの「かたち」を守ることから取り組みれば、たくさんの成長のチャンスに恵まれるはずですが、

皆さんは「1年生」ですから、この学校の生徒の中では最も学年が下になります。しかし、今の皆さんは、小学校6年間、いえ、生まれてから約12年間の経験の上に立っています。この3月まで、小学校の最上級生であったという誇りを忘れずに、様々なことにチャレンジしてください。

私たち大人や、2年生や3年生の先輩たちも、いろいろなことにチャレンジし、時には失敗を経験しながら、成長してきた仲間です。うまくいかなくて困ったときには、周りに助けを求めてください。

新入生の保護者、ご家族の皆様、改めまして、お子様のご入学、誠にありがとうございます。
今日から、私たちが大切なお子様をお預かりいたします。

この3年間は、生涯の中でも心と体の発達がとても目覚ましい時期です。将来に向かって伸びるたくさんの宝物を秘めている子どもたちの力を、大きく伸ばすことができるよう、教職員一同、力を合わせて一生懸命努めてまいります。

そのためにも、学校とご家庭との連携が不可欠であると考えております。

変化の激しい現代を、子供たちが、大きく健やかに成長するために、様々な場面で、ご家庭と連携し、取り組んでまいりたいと考えております。

本校の教育へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、改めて、皆さんの中学校生活が本当に充実したものとなるよう心から期待して、式辞いたします。

歓迎の言葉

在校生代表

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生を代表して、心より歓迎いたします。

皆さんは今、新しい環境に大きな期待を抱くと同時に、不安も感じているのではないのでしょうか。新しい友達ができるだろうか、授業についていけるだろうか、部活動はどうだろうか。そんな気持ちはとても自然なことです。

私も入学したばかりの頃は、同じような不安を抱えていました。しかし、学校生活が始まると、その不安は少しずつ楽しさへと変わっていきました。授業や行事、部活動を通して仲間と過ごす時間はかけがえのないものとなり、自分自身も大きく成長できたと感じています。

この学校には、さまざまなことに挑戦できる機会があります。勉強はもちろん、部活動や学校行事など、自分の可能性を広げる場がたくさんあります。ぜひ、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦してみてください。その経験一つひとつが、皆さんの力になります。

そして、困ったときや悩んだときは、どうか一人で抱え込まず、周りの人を頼ってください。先生方はもちろん、私たち在校生はいつでも皆さんを支えたいと思っています。

これから始まる学校生活の中で、自分の目標を見つけ、仲間とともに充実した日々を送ってください。新入生の皆さんのこれからの活躍を、心から期待しています。

新入生の皆さんの中学校生活が、実りある3年間になりますよう心から願い、歓迎の言葉とさせていただきます。

誓いの言葉

新入生代表

春の訪れを実感する頃となりました。今日、私達148名の新入生は、無事に札苗中学校の入学式を迎えることが出来ました。

私達は3月に卒業しました。そしてこれから始まる中学校生活に緊張と期待、喜びを感じながら今日を迎えました。中学校ではクラスが増え、人数が増えたり、教科ごとに先生が変わると聞いています。また、校外学習が多いなど、新しいことに対する不安があります。ですが、合唱コンクールや体育祭等の行事、委員会、部活動があることなど、楽しみなことが沢山あります。何事にも全力で取り組み、挑戦していきたいと思えます。これからの3年間で沢山のことを経験し、後悔のない中学校生活を送っていけるよう頑張ります。

先生方、先輩方、これからどうぞよろしくお願いいたします。

